

【健康・医療】

①理想の状態

「健康寿命が長い」「いるだけで健康になれるまち」

この目標を達成するために、「人の健康」「地域の健康」「まちの健康」の3つのカテゴリーに分類しました。

人の健康

一人ひとりが「運動習慣を身に付けている」「介護予防ができて」「病気に対しての予防ができて」「健康づくりに関心を持っている」「ストレス解消ができて」ことなどにより、自分の健康を自分で守ることができている。

地域の健康

「地域のつながりが強く」「市民の活発な社会参加」が行われ、「高齢者を含め、市民がコミュニケーションを取れる場所が確保されている」状態や、「健康経営」が広く実践されている。

まちの健康

「健康診断受診率が高い」「医療を受けやすい環境が整っている」「健康に関する相談をしやすい」「かかりつけ医によって健康管理ができて」「病院の情報にアクセスしやすく」「公衆衛生が充実」したまちをつくることが大切です。

②必要な取り組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取り組みを提案します。

〈人の健康〉

規則正しい生活

- 早寝早起き朝ごはんの徹底（朝食をしっかり摂る、睡眠時間の確保）
- 食育の実践（大人への教育、家庭での習慣付け、口腔衛生、咀嚼・食事の取り方を教える）

フレイル予防

- 本人が気付けるきっかけや情報提供（セルフチェックの方法、家庭でできる運動を教える）
- 健康づくりを促す取り組みへの工夫（健康体操にポイント付与など、参加者に特典を与える）

生活習慣病予防

- 世代別・年代別の健康課題に対応した健康づくり（ライフステージ別の対策、若い頃からの生活習慣病対策）

心の健康

- 引きこもり対策（生きがいを与える）
- ストレス予防に関する教育機会の充実

スマートフォンのやりすぎ注意

- 長時間のスマホ利用防止のため、チェックリスト作成・提供

〈地域の健康〉

社会参加を促す

- 生きがいを見つけるために、サークル活動やボランティア活動などへの参加
- 人が外に出ていきたくなる機会の提供（無料の〇〇など魅力的なプランを企画、炊き出し・試食会、子どもも参加・多世代交流イベントの開催）
- ぶらぶら歩きができる場所をつくる（車が入ってこられない歩行者専用のエリア、興味を持って入ってみたいとなる施設）
- 男女共同参画の実践（男性の家事参加、男女とも生涯現役）

健康経営を推進

- 自治体、商工会（企業）が健康保険等を通じて連携

〈まちの健康〉

情報提供・啓発

- 知識を提供する体制づくり（意識を変え、実行に移す啓蒙活動、セミナーのネット配信、情報を広める工夫、学習漫画）

健（検）診受診率向上のための取組み

- 受診率アップのための広報活動（自分の健康に危機感を持ってもらう）

健康づくりの担い手を育成

- サポーターを育成（サポーターが活動する場所をつくる、相談・対話）

安心して医療を受けられる体制整備

- 病院マップの作成

ストレス解消を図る

- 相談窓口の充実（SNS の活用、学校での相談）

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、市民にできること、行政にできることについて、次のとおり提案します。

〈市民にできること〉

規則正しい生活を送るなど、自分自身の健康管理に取り組みつつ、地域活動の担い手となるなど、積極的な地域参加に努めることが期待されます。

〈行政にできること〉

体操に参加すればポイントが貯まる制度や健康に関する市独自の認証マーク作成など、市民の健康づくりを動機づける仕組みづくりのほか、社会参加の担い手育成や、健康づくりに関する積極的な情報発信が期待されます。

【協働・コミュニティ】

①理想の状態 「交流・活動の場づくりができている」 「いつでも活動できる場所がある、地域の活動に誰もが参加できる」

この目標を達成するために、「市民活動・コミュニティ支援」「交流」「情報共有」「人権・男女共同参画・平和」の4つのカテゴリーに分類しました。

市民活動・コミュニティ支援

各地域単位など、住人が歩いていける距離に市民が集える場を作ること、誰もが気軽に参加し交流を深め、地域の支え合いを生み出すことが重要です。

交流

国や世代を超えた「交流」ある日々が身近にあることで、「人権・平和」といった問題を意識することに繋がります、誰にでもやさしいまちに繋がると考えます。

情報共有

地域の支え合いが生まれることで、災害時の「情報共有」や市民団体間の連携など個人だけではなく集団による支え合いが生まれ災害時も安心できる環境の創出に繋がります。

人権・男女共同参画・平和

このような、誰もが参画する協働を通して、「人権・男女共同参画・平和」に繋げるまちをつくるのが大切です。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈市民活動・コミュニティ支援〉

市民が気軽に集まれる場を設け、お互いを知り合うことを促す

- 各地区に憩いの場を設け、誰でも集えるようにする（駅に近い利便性の良い場所や歩いて行ける身近な場所に多目的に使える場の創出）
- 各地域に集いの場づくり（緩い集まり・サロンの場への支援、空き家の利活用など）
- 市民団体のつなぎ役を行政が担う（連携のサポート）

〈交流〉

市民が気軽に集まれる場を設け、お互いを知り合うことを促す

- 引きこもりの人たち向けの就労場所を確保
- 地域や学校でお互いを知る（伝統文化継承事業、異文化の受け入れ）
- 地域のリーダーの育成、担い手の育成
- 学校を中心とした地域の人との世代間交流事業（保育施設と高齢者施設の交流、継続的に続く、一過性でない交流事業）

〈情報共有〉

全体

- 情報の信頼性の向上
- 共通言語を優しい日本語にする

- 行政サービスを外国人にも行き渡らせる（文書を分かりやすく、相談場所の明示）
- 伝承文化センターの設立

災害

- 各家庭に無線ラジオを設置し、防災や公共に関わる情報を流す
- 災害時専用の情報センターを設置
- 駅や大型スーパーに情報発信のディスプレイを設置する
- 各戸に情報発信のディスプレイを設置する（高齢単身世帯）
- 広報以外の媒体による情報発信の強化
- テレビ埼玉で上尾の番組を放映
- 防災無線の改善（多言語化による情報共有）
- 防災マップの精度向上

〈人権・男女共同参画・平和〉

人権・平和

- 啓発機会やツールの充実（市民に対する啓発の充実、講演・講座等の定例会の実施、悩んでいる人の電話相談）
- （国・人への）思い込みを捨てる（偏見に気付くこと、あいまいな言葉について考える、相手のことを知る、転入外国人の子どもたちの学校へのスピーディーな受け入れ）
- 人権や平和について教育に組み込む
- 性的少数者への正しい理解（学校教育の充実、同性パートナーシップ）
- インターネットの便利さと怖さを知る（学校でスマホ教室を充実、学校で SNS の使い方を教える）

人権・平和

- 学校教育により性差別の根絶を含め、人権を守ることの重要性を教える（性差別の問題を教育に組み込む）
- 役所の課長ポスト以上に女性を増やす

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、市民にできること、行政にできることについて、次のとおり提案します。

〈市民にできること〉

市民主体でイベント・活動を行うために、リーダー養成講座への参加や積極的な意見交換をする場への参加など、教育・人権等の活動をはじめ様々な分野で情報交換・共有に努めることが期待されます。

〈行政にできること〉

交流活動場所の提供や担い手の育成など市民活動を支援するための仕組みづくりに努めるとともに、協働・コミュニティに関する情報のほか災害等に関する情報などの提供・発信の強化が期待されます。また、人権等に対する理解のさらなる浸透も期待されます。

【行財政運営】

①理想の状態

市民・民間等との協働の推進

この目標を達成するために、「行政運営」「財政運営」「公共施設」の3つのカテゴリーに分類しました。

行政運営

「行政運営のスリム化」は、単に職員数を減らすことではなく、市民との協働により効率的・効果的に事業を進める体制をと整えることで実現できると考えています。

財政運営

事業のスクラップ&ビルドが重要だと考えています。行政評価の手法を検討しつつ、事業の費用対効果を把握することが重要になります。工業・農業特区化など具体的な方法で地元の雇用を増やし、人口増に結び付けることが大切です。

公共施設

「施設の安全性の確保」がまずは重要だと考えます。その上で、施設の複合化・多機能化をすすめることで、障害者や高齢者、子どもなど多様なニーズに応えられる場として機能することが求められます。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈行政運営〉

行財政運営のスリム化

- 外部の民間人材の活用
- ICTを活用して行政運営を分析
- 予防医療（がん検診等）を将来的な扶助費の負担減につなげる
- 行政サービスのワンストップ化
- 民間事業・NPO法人との連携
- 業務の効率化のための、事務事業の見直しを図る
- 行政が団体同士のつなぎ役を担う

協働

- 地域でできるものは、地域で取り組む
- 公助、共助を実行できる体制づくり
- 質の高いボランティア（サービス提供者となるボランティアの育成重要、ボランティアの意識啓発）
- 司令塔を置き、官民連携を進める

透明化

- 市民への説明を徹底（タウンミーティングの積極的な実施、業務過程の見える化）

多様なニーズへの対応

- これまで取られなかったような施策の検討

市の足腰強化

- 若い世代が子育てしやすい施設を造る

〈財政運営〉

財政運営のスリム化

- PFI 等民間の財力も活用した施策
- ボランティア団体の活用で出費を抑える
- 必要な場に配分し、必要に応じて見直せるルール作りを行う
- 事務事業評価（手法の検討、外部組織による評価、客観的な評価、既得権益の撤廃、費用対効果の見極め、スクラップ&ビルド）
- 補助金の見直し（使う側の意識も大切）

市の足腰強化

- 活力ある企業を誘致し、法人市民税を増加させる（会社立地条件を改善し、企業を誘致する、工業特区をつくり、企業を集積する）
- 地域産業への行政からの後押し
- 人口減を抑制する施策を通じて、市民税収を安定させる
- 使用料などを見直し、収入率を上げる

〈公共施設〉

効率的な施設整備

- 市民サービスの低下を招かないような効率的な施設の設置
- 土地を有効活用し、公園を多く整備する
- 公共施設の統廃合を進める
- 複合化、多機能化を進める
- 小学校を別の用途で使用するなど、既存施設の転用（施設の再利用）

戦略的な施設整備

- 子育て世代の移住定住を促進するための保育所などの優先的整備

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、市民にできること、行政にできることについて、次のとおり提案します。

〈市民にできること〉

自治会や地域団体、ボランティア活動を通して、リサイクル活動やイベントの企画・参画など自分たちでできることは自分で実施することが期待されます。

〈行政にできること〉

財政基盤の強化のため、工業・農業特区の設置や、ボランティアや民間活力の活用など行政と市民の協働を探りつつ、行政のスリム化に努めることが期待されます。

【防災・防犯・交通安全】

①理想の状態

安心・安全な暮らしを実現できるまち

「交通安全」「防災・危機管理」「消防」「防犯」「消費生活」の5つのカテゴリーに分類しました。

交通安全

自治会の活動等を通じた見守り体制の強化、事故に遭わないために、交通安全意識の向上に努めることが重要になります。

防災・危機管理／防犯

災害に備えておくこと、犯罪に巻き込まれないことが必要になります。その為に、ハザードマップの確認やきちんと鍵をかけるなど、平常時から意識して備えることが大切です。

消防

施設見学やAED・救命講習への参加など、市民側の対策が求められます。

消費生活

消費問題を考える場の創造や市民講座を通して、地産地消の促進をしつつ、リサイクル意識・食べ残しの軽減についても市民意識の醸成が大切になります。

理想の状態に近づくためには、各カテゴリーにおいて、地域ぐるみで横断的に取り組む必要があるので、各種問題について市民意識の醸成に努め、市民が積極的に行動するまちをつくることが大切です。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈交通安全〉

ソフト対策

- 児童用に自転車ヘルメット着用の強化
- 自転車の乗り方改善（免許制、子ども・高齢者に対する交通安全教室）
- 免許返納者に対する市内循環バスの無料化
- 青パトのスリム化・効率化 ➤ 見守り隊の組織化（市全体、補助金を検討）
- 学校との連携により事故を抑止する
- 自治会、学校などと連携した地域の危険箇所の定期的な把握

ハード対策

- スクランブル交差点の増加（歩車分離整備工事） ➤ 街灯の増加、維持管理

〈防災・危機管理〉

ソフト対策

- ハザードマップの周知 ➤ 地区防災計画の策定（学校と地域が連携して防災計画を立てる）
- 事前復興計画の策定 ➤ 防災教育（体験学習、自治会や学校と連携）
- 防災訓練（消火など母子対象の訓練、避難所までのまち歩き、避難所設営訓練）
- 情報共有（防災情報の共有、SNS等活用によりリアルタイムで情報発信する職員を配置）
- 有事の際の民間との協力（ショッピングモールなどと協定を結び避難所として活用）
- 市と市民の連携（有事の避難所開設を想定した市職員と自主防災組織の連携明確化、市と防災士の連絡再確認）

- 備蓄倉庫数の公開

ハード対策

- 防災用スピーカーの強化
- 防犯カメラの設置
- 避難道路の整備

〈消防〉

- 消防団との連携
- AED 講習、救命講習の実施
- 地域交流の推進

〈防犯〉

ソフト対策

- 防犯パトロールの充実
- 防犯メールの認知度を上げる

ハード対策

- 街路灯の設置
- 空き家を利用する

〈消費生活〉

- リサイクルシステムの工夫（子どもの服などのリサイクル、制服・バッグ・ジャージ等のリサイクル、リサイクル資材の商品化）
- 食品ロスの削減（食品ロスのシンクタンク、消費者団体と協働するお届けミニ講座）
- SDGs への取組み（プラスチックごみの削減、ごみの減量）
- 地産地消の推進（野菜などの直売所設置）
- 子ども食堂への支援
- あげバルの広報活動
- 困った時の窓口明確化（高齢者の買い物サポート、処分事業者の紹介）

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、市民にできること、行政にできることについて、次のとおり提案します。

〈市民にできること〉

交通安全や防災・防犯に関する情報共有や市民参画を通して、分野横断的に市民意識の醸成に努めることが期待されます。

〈行政にできること〉

自転車道の整備や防犯カメラの設置など交通安全や防災・防犯に関するハード面の整備と地域防災計画の指導や空き家バンクの活用などソフト面の仕組みづくりのほか、リサイクル情報の提供など各種取り組みのPRを行うことで、市民との協働で積極的な市民・行政の連携が期待されます。

【福祉】

①理想の状態

障害の有無や年齢などに関わりなく、 誰もが参加できるコミュニティがある状態

この目標を達成するために、「生活福祉」「高齢者福祉」「障害者福祉」の3つのカテゴリーに分類しました。理想の状態に近づくためには、各カテゴリーにおいて、横断的に取り組んでいることが前提となります。

生活福祉

「ひとり親世帯や貧困について、地域の人たちの理解がある状態」や「生活保護に至る前にセーフティーネットが働く状態」など市民意識の醸成や支援の仕組みづくりが重要となります。

高齢者福祉

「安心して暮らせる」「生きがいを持てる」など高齢になっても安心感がある生活を送ることができる状態の実現が求められます。

障害者福祉

「福祉の担い手」の育成や「福祉サービス」の向上など、その人らしく暮らせる社会の実現が大切になります。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈全体〉

- ハンデのある人が普通に生活できるようにする（表に出てこない、福祉を必要としている人の支援、ひとり親や障害者の支援、誰でもアクセスできて人との関わりが持てる場をつくる）
- 体験を伴う福祉の講座
- 福祉をうまく利用してもらう（今あるサービスの認知度向上、「介護サービスを受けるのが恥ずかしい」といったイメージの解消）
- 相談支援体制の確立（必要な支援機関につなぐコンシェルジュを設置、「相談する力」の向上促進）
- ボランティアの充実（サービスを必要としている人と提供する人をつなぐ、地域の中でお助けボランティアをつくり、枝切り・草むしり・子守等を有償または無償で行う）
- 引きこもりの人の支援（年齢制限をなくす、金銭的な援助を）
- 1歩外に出たくなるような支援（市内循環バスの本数増加）
- 働き方の改革（個々人に応じた多様な働き方、就労支援、再雇用支援、一つの仕事を複数人が担う多能工の導入、企業に対する福祉・介護・子育て講座開催、賃金格差の是正、子どもが病気の際に休める制度、育児休暇の取得促進）
- スポーツ少年団など社会教育団体の充実
- 地域で高齢者が気軽に参加できる場を設ける（地域の安否確認システムの充実）
- インフラ整備（バリアフリー、車椅子、障害者用のトイレなど）

〈生活福祉〉

- 保育バージョンの充実
- ひとり親のシェアハウス
- 引きこもり支援相談センター等、行政の連携・チームづくり

〈高齢者福祉〉

- 健康寿命の延伸を図る（ラジオ体操・ウォーキングなどスポーツしやすい環境整備）
- 自立支援（高齢者の自立を支えるサークルの充実、講座の設置、高齢者がオレンジカフェなどの運営者として関われる支援）
- 西口にも東口の「ことぶき荘」のような施設を設ける

〈障害者福祉〉

- 様々な障害に対して市民の方の理解を深める
- パラスポーツの普及
- サービスを利用する当事者の話を聞く
- 空き家の活用（住まいの保障）
- 子どもたちへの啓発

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、市民にできること、行政にできることについて、次のとおり提案します。

〈市民にできること〉

「できる人ができる時にお声がけをする」、
「障害者や高齢者の生活を見守る」など、近隣の人の気配りを通して、身近なところから誰もが住みやすいまちの実現に向かって積極的に交流・活動することが期待されます。

〈行政にできること〉

歩道や施設のバリアフリーの整備などハード面の整備と、働き方改革や障害者や高齢者の交流機会の充実などソフト面の整備のほか、福祉サービスへの認知向上など広報活動を通じた、情報発信が期待されます。

【都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園】

①理想の状態 SDGsの実現に向けて行政・市民一体になった都市づくり

この目標を達成するために、「上水道・下水道、河川」「土地利用・住環境」「交通・道路」「環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり」の4つのカテゴリーに分類しました。

上水道・下水道、河川

安心・安全な水を継続的に供給することが求められます。災害時への対応や雨水タンクの設置など持続可能な水道経営が重要となります。

土地利用・住環境

小規模開発の抑制や上尾道路沿道の有効利用など、適切な土地利用を促進しつつ、緑地を確保することなどが求められています。

交通・道路

自転車中心のまちづくりのために、駐輪場の確保や自転車道の整備など生活道路などの積極的な整備推進が重要となります。

環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり

効率的、効果的なリサイクルが推進できている状況が大切になります。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈全体〉

- SDGs 未来都市への立候補 ➤ SDGs の取組みに目配り ➤ 行政が指導者育成
- 「制限があるからできない」をやめる ➤ 市民参加の制度づくり（若者を重視）

〈上水道・下水道、河川〉

上下水道

- 設備の計画的な保全・改修（古い水道管の取り換え、下水路の整備と改修事業の推進、配水場、配水管の更新、長寿化）
- 整備においては優先順位を付ける。適切な料金体系（約 1.2 倍）
- 効率的な事業運営（水道事業の広域化、持続可能な水道サービスを運営するため計画的かつ効率的な事業運営にする）
- 水質基準に適合した水の供給の継続 ➤ 災害時の強化
- 給水車の配備、貯水槽の設置 ➤ 浄水場間の連絡管の整備

河川

- 浸水被害の軽減（雨水貯留施設の整備促進） ➤ 都市下水道の改修事業の推進
- 総合的な計画を策定する ➤ 河川の活水機能を高め河川等の整備を進める
- 鴨川、芝川の水質管理と増水対策 ➤ 親水公園などの整備（水と緑を多くする、美化に努める）
- 行政・市民一体となった国・県への整備促進の要望

〈土地利用、住環境〉

土地利用

- 区画整理を進める（規定にとらわれない整備） ➤ 土地利用制限の緩和
- 取り返しのつかない雑な上尾市になってしまうことに配慮すること
- 企業誘致を行う場合、周辺環境への配慮（特に公害等）を徹底するように
- 農地の活用（高齢で手の回らない）→作る・育てる→食べる・販売する（イベント化する）
- 必ず起きる大災害に対応して、余剰地の確保が必須。郊外まで資材置き場などが張り出している
- 上尾道路沿道の適切な土地利用の推進 ➤ 空き地など活用によるオープンスペースの確保
- 地域コミュニケーションの活性化（連絡体制の確立） ➤ 街づくり協議会の活用推進

住環境

- 狭小住宅やワンルームマンションの規制（狭小土地の建築物規制）
- 余剰施設等を活用し生活の場を整備する ➤ 小規模開発の抑制
- 二世帯、三世帯住宅の建築奨励等の強化（2世代3世代同居（地域内でもよいところのアピール））
- 多世代間交流可能な高齢住宅用集合住宅の整備 ➤ 子育て・仕事・地域参加などのメリット
- 地域住民主体の取り組みの強化 ➤ 住民参加しやすい体制、仕組みづくり
- 自治会の運営（高齢化でやり手がなくなる）制度を作る（ex. さいたま市）

〈交通、道路〉

交通

- 公共交通の再配備（見直し）（ぐるっとくん増やす、料金を上げる、バスではなくても大型車の利用などぐるっとくんの効果的運用、交通ネットワークの充実（鉄道・公共交通）、公共交通の再配備（見直し）、）
- 自転車利用の推進 ➤ 移動手段、公共交通のニーズを調査
- 道路の整備（狭あい道路、都市計画道路）
- 的確な維持管理 長寿命化 ➤ 都市計画道路の見直し

〈土地利用、住環境〉

道路

- 生活道路の通過目的の自動車侵入規制を図る
- 幹線道路の地下化の検討
- 自転車のまちを実現するための安全性の確保
- 国道・県道の整備促進要望（市内17号の渋滞対策、上尾BPの整備促進）
- 駅に自転車を止める所が少ない（一時的な）駐輪場を増やす
- 歩道と自転車と車道の整備（ガードレールの内外に）
- 自転車専用レーンの整備 ➤ 駐輪場の整備（自転車のまち上尾 高齢者・返納者への配慮）
- 街路樹の適正管理（計画策定） ➤ 道路の計画的な保全・改修
- 渋滞緩和の対策（駅前ロータリーの拡張整備）

〈環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり〉

緑・公園

- 緑豊かな公園やオープンスペースを維持・整備する
- 屋上緑化や壁面緑化の促進
- 緑地の保全・創出→SDGs とのリンク
- 農地を確保するための人員確保
- 持続可能な農地の保全
- 緑化は市民義務として住居周辺の緑化の推進
- 環境教育を充実
- 生産緑地の保全（オープンスペース確保）
- 緑地・公園の整備のために土地を確保する

環境

- 環境配慮意識の啓発及び活動（住民、あらゆる層に環境教育を計画的に行う、意識向上への取り組み（イベント開催、教育へ取り入れるなど）、子ども（小中高）環境学習の体験授業の実施）
- 地球温暖化対策の促進
- 学校教育と環境保全活動の連携
- きれいな水のために汚水を流さない。使いすぎない取り組み。動物も住める。
- 地域住民ボランティアによる環境活動の実施
- 地域の担い手となる市民の育成
- 「クリーン上尾」を増やす

廃棄物・リサイクル

- ゴミの減量・分別の促進
- ゴみ資源化の促進
- リサイクルできない物の生産禁止
- リサイクルセンターを各自治体ごとに作って回収する
- エコバッグポイント等上尾でも取り組んでみる
- ゴミの分別、減量、雑誌の混入をなくす
- 食品ロスをなくす（事業者、家庭一体となった取り組み）
- ゴミ減量とごみの再資源化→SDGs とのリンク

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取り組みを実行していくに当たり、市民にできること、行政にできることについて、次のとおり提案します。

〈市民にできること〉

SDGs の目標の理解に努めるとともに、ゴミの減量・分別、食品ロス削減に取り組むほか、若者を中心とした次世代のリーダー育成や地域の環境活動への参加など積極的な市民参加が期待されます。

〈行政にできること〉

ハード面では、災害時にも対応できる水道整備や安心・安全な道路整備など、災害に負けないまちづくりが求められているとともに、利便性のよい公共交通や緑や水辺環境の整備など良好な住環境の整備が求められています。ソフト面では、住民が参加しやすい体制・仕組みなど市民参加の制度づくりが期待されます。

【子育て】

①理想の状態

「安全・安心に子育てできる」「孤立させない」
「子どもたちの希望や自己肯定感が生まれる」環境がある

この目標を達成するために、「子育て」「青少年」の2つのカテゴリーに分類しました。

子育て

安心・安全に子育てできる環境を作るため、子育てに関する施設の充実及び関連施設の働き手の確保、保育士等の人材の育成支援が必要となります。仕事と子育ての両立や母親が孤立しない環境を作るためには、周りの理解が必要となり、社会全体で子どもを育てる意識が大切になります。

青少年

多様な育て方を認めることや地域との関わり合いを持つことで、安心して集える場を創造すること、地域の人たちの見守り体制を通して、子どもたちが自由に遊べる環境を整えることが重要になります。

地域の人と関わり合いを持てる場所を創出することで、安心して集える場の創造につながると考えます。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈子育て〉

子育てと仕事の両立

- 柔軟な労働時間
- 子育てについて有益な取り組みをしている企業へのフォロー（補助・周知）
- 個人に対してプッシュしてお知らせできる仕組み

孤立しない

- 積極的な情報提供※個別적으로お知らせ（妊婦さん etc.）
- 子育ての準備ができる場所づくり（つながりの場）
- 社会が支援に切れ目をなくす取組み

安心して子育てできる

- 父親が子育てを学ぶための場の提供
- 失敗経験を共有できる環境
- 保育時間の拡充（必要量を選択できる）
- 学校の ICT 化、学習の場所提供
- 貧困対策の取組み PR
- 十分な学習の機会が持てる取組み（取り組んでいる団体のフォロー etc.）

安心して子育てできる

- 働き手の確保（学童 etc.）
- 補助金の活用
- 人材育成への投資
- 障害の有無にかかわらず一緒に過ごせる環境づくり
- 子育てに必要な財源を確保する

〈青少年〉

安心して子育てできる

- 居場所の提供・活用（児童館 etc.）たまり場
- 多様性に対する行政の正しい理解（職員研修 etc.）
- 行政・関係者が必要とするニーズを学ぶ研修を受けて行政マンが変わる
- ボランティアマネジメントに対する支援を行政がする

地域の人間関係

- 子育て世代と中・高生の交流の場づくり
- 子どもが集まれる場所（自由度の高い）
- 団体への柔軟な対応（場所の提供 etc.）

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、市民にできること、行政にできることについて、次のとおり提案します。

〈市民にできること〉

子育ての経験を生かしたボランティア活動など市民団体への参加や子育て失敗談、子育て世代へのアドバイス等の情報を共有するとともに、地域の青少年の見守り活動などへの参加が期待されます。

〈行政にできること〉

子育て施設の充実のために、補助金や働き手の確保をするとともに、地域の居場所づくりや多世代交流の場の創出など、子育て・青少年育成のための環境づくりに努めます。

【文化・スポーツ】

①理想の状態

文化・芸術・スポーツ・レクリエーションに 世代を問わず触れることができる

この目標を達成するために、「文化・芸術、文化財」「生涯学習」「スポーツ・レクリエーション」の3つのカテゴリーに分類しました。

文化・芸術、文化財

「上尾学」という科目で、地域の歴史、文化・芸術に関する教育をするなど、上尾らしさを市民が子どもの頃から理解している状況を作ることが大切になります。

生涯学習

既存の施設の有効活用や市民の活動場所の確保など利用者が活用しやすい環境整備が求められます。また、施設の利用促進のため、利用者のデータを活用、手続きの効率化など利用しやすさの向上等が挙げられます。

スポーツ・レクリエーション

市内にある大小の公園を面的に結ぶことで、みどりの通り道を創出し、高齢者のウォーキング等に活用できるなど、健康促進のためのハード整備も必要です。

さらに、スポーツのまちをアピールするために、若者が利用するボルダリング場やスケートボード施設など整備コストが比較的安い施設を整備し広報することが若者の人口増につながると考えられます。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈全体〉

文化財の展示・施設

- 文化、スポーツに関する広報活動
- 文化、スポーツ全般を掌握する市役所の担当課を設ける
- PR、ブランディングを専門にする部署
- 上尾 PR コーナーの設置（文化、スポーツ）

〈文化・芸術、文化財〉

文化財の展示・施設

- 文化財展示コーナー
- 民俗文化財の展示
- 上尾市郷土博物館の新設（歴史・文化・伝統・物産品等広く市民に学ばせる）
- 市の歴史、自然、文化がわかる施設（勉強できる施設）
- 空き家の有効利用
- 公共施設の利用料金の格安化

まち街の中で触れる芸術の機会（催し）

- 芸術祭の開催（映像・音楽・絵画等を町の中心で一か所開催がベスト）
- 芸術展、美術展の開催
- くるっとくんをミニ美術館にする
- 町の中でふれあうことのできる文化・芸術イベント

〈生涯学習〉

機会の充実

- 各地区公民館の活用
- 今あるインフラ・人材の活性化
- ふるさと学（上尾の自然、歴史、民俗）の学習
- 「地元の日」の開催（文化財・歴史に関する）
- 親子、多世代で楽しめる文化・芸術・スポーツのイベントの実施
- 子供から高齢者、障害のあるかた、外国人など色々な人が参加できる行事
- 生涯学習、スポーツレクを通じて、地域のコミュニケーションを強める
- 道の駅の誘致

〈スポーツ・レクリエーション〉

スポーツのまちあげお

- 新しいスポーツのできる施設整備（ボルダリング、ハーフパイプ）
- 新たな施設をつくり大会を開催（ボルダリング、スケートボード、BMX）
- 上尾シティーマラソンに車いす部門や目の不自由な人のクラスを新設する
- ウォーキング用の道路の整備
- スポーツ協会の活性化
- プロスポーツチームとの連携
- 県の施設との連携、有効利用
- 魅力のある（楽しい）スポーツレクや生涯学習を企画して、健康寿命を延ばす

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、市民にできること、行政にできることについて、次のとおり提案します。

〈市民にできること〉

上尾の歴史・文化・芸術を子ども達に伝えるなど、世代を超えた交流を通して、上尾について学習する機会を増やすとともに、スポーツ・レクリエーション企画、イベントの参加が期待されます。

〈行政にできること〉

市民が気軽に文化・芸術、スポーツに取り組めるよう、総合文化センターの整備や文化・スポーツイベントの実施など市民参加の拡充に努めるとともに、「スポーツのまちあげお」を市外にアピールするなど、広報活動が期待されます。

【教育】

①理想の状態

自由な雰囲気教育環境があり、発想が豊かな子どもが育つ

この目標を達成するために、「教育環境」「教育活動」の2つのカテゴリーに分類しました。

教育環境

「教育の質の向上」のための取り組みが重要になります。誰もが学びやすい環境をつくるために、少人数学級の実現に向けた取り組みや、教員が本来の業務に集中できるよう、A I や I C T の活用等、教員の負担軽減に努めることが、子どもたちの教育の質の向上につながると考えます。

教育活動

放課後子供教室も含めて、地域の人材を活用しながら全市的に進めていくことが重要になります。大人も交えた世代を超えた教育の実施や、子どもたちが志を持てるようなキャリア活動の充実、子どもがいきいき学べるような自由な雰囲気教育活動の実現など、自分らしく学べる教育が重要だと考えます。

②必要な取り組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取り組みを提案します。

〈教育環境〉

地域との連携

- 地域住民による授業、行事、ボランティアへの参加
- 学校のことを（簡潔に）地域に知らせる
- 学校への相談窓口の設置（対保護者、地域）

誰もが学びやすい

- 外国籍の子の受け入れについて（日本語を母語としない子供の受け入れ）
- 給食費の無料化を実現する
- 所得格差による教育格差をなくす→補助金等 or 無償の塾
- 生涯学習、IT 図書館・滞在型 Wi-Fi、ネット、議論
- 補講、補習の場の提供（学習支援の拡充）

教員の働く環境

- 教員の意識改革（働き方）（先生が教えることに専念できる環境整備、時間外勤務の管理、教員の勤務状況の実態把握）
- ICT を利用した県外の学校との交流
- 県外の先生とつながる機会をつくる
- 働く環境（AI の活用など）
- 教育実習生への対応（今後も上尾で働いてみたいと思わせる）

教育の質

- 教員の質の向上のため教員の増員を図り、研修のための期間を設けて、教育内容の向上をはかる

- 教員の構成バランス
- 教員になりたい職業になるような取組み
- 適性のない教員の発見と研修
- 研修内容の見直し（いつでも、どこでも、だれでもできる）
- 先生を二人制にする（チームティーチング）
- 教員・その他のスタッフ（支援員など）の数を増やす

安心

- 小学校に毎日相談員がいる ➤ 全地域で放課後教室を開催
- 小・中学校適正化（統廃合）

〈教育活動〉

多様性

- 少人数学級を作る
- 子どもたちに夢を与えるために、将来について考えることができる授業を実施

自分らしく学ぶ

- 自分らしい学び方を通した「人」の育成
- 子どもが発言する場を増やす（自分のことを話す時間をもうける）

学力

- 基礎学力の充実 ➤ 実際に使える英語教育を充実させる
- 習熟度別クラスの充実（その中で競争させる。または自分との闘い）

世代間交流

- 異学年との交流を図る

その他

- 子どものハローワーク体験

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、市民にできること、行政にできることについて、次のとおり提案します。

〈市民にできること〉

子どもがいきいき学べる環境づくりのために、地域の見守り活動への参加や大人も子どもと一緒に学ぶことで、学びの楽しさを伝えるなど、子どもとの交流を通した教育活動への参加が期待されます。

〈行政にできること〉

教員の働く環境の改善のために、A I ・ I C T環境の整備や少人数学級の実現など、教員の負担軽減に向けた取り組みのほか、世代間交流イベントの企画やキャリア教育を通した子どものハローワークなど自分らしく学べる教育活動の実現が期待されます。

【産業】

①理想の状態

誰もが持続可能な働き方を実現

「産業」の理想の状態としては、「収入が安定していること」、「後継者がいること」、「働ける場があること」等、誰もが持続可能な働き方を実現できていることが目標として挙げられます。この目標を達成するために、「農業」「商業」「工業」「観光」「勤労者・就労支援」の5つのカテゴリーに分類しました。

農業

安定した収入の確保や後継者不足が解消された状態が理想とされ、そのために法人化等を通じた大規模農業の実践、高付加価値化や道の駅での販売、地産地消の促進が重要となります。

商業

空き店舗やあげポタによる情報発信等を通して、上尾の独自性のある商店街運営など差別化図られている状態が重要になります。

観光

七福神や中山道など上尾の歴史や自然から地域資源を再発見して上尾独自の観光スタイルを確立することが重要になります。

工業

工業特区の指定や情報化社会に対応した新たな工業団地など、各事業者が操業しやすい環境を作ることが大切になります。

勤労者・就労支援

企業の健康経営を推進するために、予防医学の充実が重要になります。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈農業〉

後継者

- 農業法人設立による大規模農業
- 外国人農業実習生の活用推進
- 農業の機械化を促進（法人化してシェア）
- 大規模な企業を誘致（従業員として雇用）
- 高齢者の活用推進

企業

- 道の駅（直売所）拡充（上尾道路）
- 品質の維持・向上（監視員）
- 農家の意識改革（企業努力）
- 新たな商品開発

市民意識

- 道の駅（直売所）拡充（上尾道路）・市民の意識変化のための取組み
- 新鮮な農産物の利点を学べる機
- 農業がかっこいいイメージづくり
- 自給率アップの教育

〈商業〉

- あげポタ等の活用
- 西口駐車場の活用
- アッピー通りの再生

- 駅周辺の再開発
- ミニ竹下通りのような商業通りを整備
- スポーツ施設来場者にお金を落としてもらえるような仕組みづくり
- 食のテーマパーク化（合わせ技）
- オリジナルグルメの企画・提案
- 売り（特徴）のある商店街づくり
- 日中女性が集まれるカフェなど
- 施設を集約し、飲食店街を新たに作る（ビル一棟丸々飲食店）

〈観光〉

- 新たな目玉をつくる（開発）
- 上尾七福神など
- 新たな観光スポットと商店街などのコラボレーション
- 畑アート（耕作放棄地の活用）
- 花畑＋飲食店の営業

〈工業〉

特区

- 市内の町工場の経営上の利便性の向上
- 工業団地など市内に工業に特化した区域を作る
- 新しい特色ある工業団地を整備

行政のサポート

- 利用しやすい補助金を整備
- 新商品を PR・販売
- クラウドファンディング（やり方の指導）
- ベンチャーキャピタル

〈勤労者・就労支援〉

- 大手の事業所に高齢者を雇う条件等を付けて進出させる

働く人への支援

- 創業支援
- 健康経営の推進
- 自治体として勤労者に対するフォローをしっかりと行う
- 自治体と商工会がタイアップして取り組む
- 高齢者や障害者が働きやすい（雇ってもらえやすい）環境づくり

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、市民にできること、行政にできることについて、次のとおり提案します。

〈市民にできること〉

元気で働ける状態を保つために、予防医学への取り組むことや農作物の提供を通じた地産地消への貢献など、産業を通じた地域参加のほか、後継者育成のための若者への情報発信、新しい担い手の育成など市民へのアピールが期待されます。

〈行政にできること〉

農業・商業・工業を維持・発展するために利用しやすい補助金制度の仕組みづくりや、市内に特区を作り産業に特化した地域整備などハード・ソフト面での行政サポートが期待されます。